

タガメ

Lethocerus deyrolli (Vuillefroy)

カメムシ目コオイムシ科

石川県カテゴリー 絶滅

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的に激減し、北陸3県でも近年の確認例はほとんどなく、県内では絶滅したと判断される。

形態

体長48~65mmで日本最大の水生昆虫。体型は扁平で体色は灰褐色~褐色。1齢幼虫は黄色と褐色の縞模様、2齢以降は全身が淡緑色。口吻は短大で第2節は短い。前脚は先端が1本の爪となった捕獲脚、中・後脚は扁平な遊泳脚である。腹端には伸縮可能な短い呼吸管をもつ。

国内分布

北海道、本州、隠岐島、淡路島、四国、九州、対馬、琉球列島に分布する。

県内分布

1951年の小松市丸ノ内の採集個体が現存しているのみである。かほく市や輪島市では1970年代までは生息していたようで、かつては個体数は少ないものの、県内に広く分布していたと考えられる。

生態

カエル、水生昆虫などを捕食する。4月頃から活動し、メスが5~6月頃に水面上の抽水植物の茎や杭に産みつけた卵塊を、オスが保護する。幼虫は約1ヶ月半で老熟し、8月頃に羽化する。成虫は数kmを飛翔し、灯火に飛来する。10月には上陸し、水際や林内の枯れ草や石の下、泥の中で越冬する。

生息地の条件

平野部~丘陵部の、抽水植物などの水草が多く、やや水深のある、池沼、湿地、ため池、水田、休耕田などのさまざまな止水域、緩やかな流れの河川や水路の水際部にも生息する。

生存の危機

池沼・河川の改修、圃場整備、休耕田の植生遷移などによる生息環境の消失や、水質の悪化による餌生物の減少、街灯の増加、近年では採集圧も脅威である。本種は農業への感受性が高いため、北陸3県では1950~60年代の農業使用によって大打撃を受けたと考えられる。(A)

特記事項

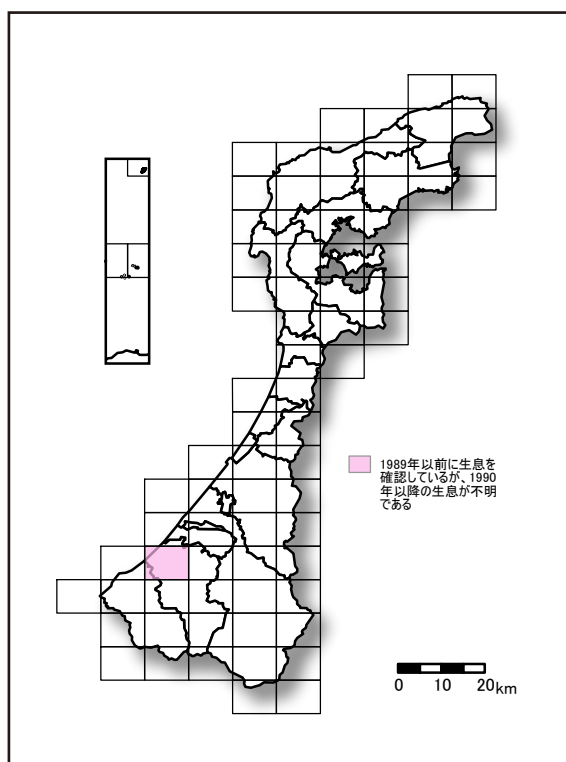
近年、金沢や能登で発見例があるが、飼育個体の放逐の可能性が高い。

参考文献

市川憲平 1993-1994. 雄が子守する虫たち タガメの生態(1)-(3). 海洋と生物, 15(5): 353-356. 15(6): 421-426. 16(1): 55-61.
向井康夫 2007. 稲作水系におけるタガメの生活場所利用. 昆虫と自然, 42(12): 13-16.



標本提供者:小松市立博物館



県内の分布